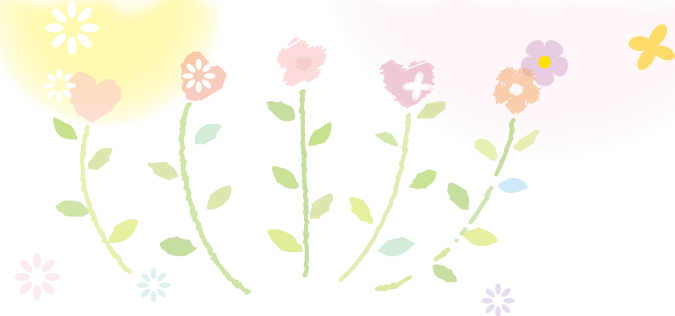


「自他ともに 心豊かに生きる」とは どのようなことでしょうか。



きたでしょうか。私にとってし
あわせとは何か、今ここに生き
る私とお浄土はどのような関係
があるのか、神という存在をど
う受け止めればいいのか、部落
差別をはじめさまざまな差別を
無くすにはどうすればよいか、
戦争や非戦平和にどれほど意識
を向けて生きてきたかなど、た
くさんの課題が知らされました。
こうして気づかされたさまざま
な課題は、連研において一緒に
話し合ってきたからこそ見えて
きたものもあるでしょう。それ
らは社会（世間）において現前
と残っている私たちにとって解
決すべき課題です。

一方で私たちは、こうした課
題を抱えながら、みなそれぞれ



なか かわ おお き
中川 大城
連研中央講師

私たちの解決すべき課題

連研では、グループに分かれ
てそれぞれに思いを語り、聞き
合うという、話し合い法座の形
式で進めていくことが大きな特
徴です。これまでの連載でさま
ざまな問いに向き合ってきました。
た。ここを読んでくださった方
はどんなことを思い、どんなこ
とを感じてくださったでしょう
か。今回は『自他共に心豊か
に生きる』とはどのようなこと
でしょうか」とあります。『連
研ノート・E12の問い』も最後
となりました。みなさまと一緒
に考えていきたいと思っています。

これまでの問いを通して、具
体的にどのような課題が見えて

「自他ともに心豊かに生きる」とは

どのようなことでしょうか。

12の問い
その12

にしあわせに生きられる理想の世界を切望しているのだと思います。しかし、虚仮なるものを本質とするこの世界（娑婆）において、私は深い迷いの底にあり、何が真実であるかを見抜く力も持ち合わせていないのです。

そんな私に、浄土真宗というみ教えを親鸞聖人はお伝えくださいました。このみ教えは、その理想の世界（国土）である浄土を、その真実を生きとし生けるものすべてに教え、行動し、証（さ）し、はたらいておられる阿彌陀如来を本尊とします。つまり

このみ教えに生きる者は浄土の真実をいただき、浄土という道標に向かつて歩むということです。また、如来さまを拝み、「南無阿彌陀仏」と称えて生きるということは、如来さまを敬って生きていくということです。これらはみ教えを行動の中心に据えて、その行いや判断基準を如来さまからいただいて生きるという大切な意味があります。

み教えに聞く

さまざまな課題に対して、私の勝手な価値基準を第一として

自己中心的に生きていくのであれば、何も変わらずまた新たな苦悩を生みだしていくのだと思います。現代の社会はさまざまな矛盾を抱えており、私たちはその中に生きなければなりません。しかし、その矛盾は社会を構成する私自身が作りだし、さらに自ら生み出した苦悩によって自らを苦しめていることも、み教えとのであいの中に知らされます。

一方で、仏さまのように理想的に生きることは大変難しいことです。しかし、このみ教えを

聞き続けていくことは私たちにできません。お聴聞を続けながら、仏さまのような生き方をめ

ざす人を念仏者と呼ぶのです。今まで「み教えを聞く」としてきても、「み教えに聞く」ことをどれだけしてきたかと自分に問うてみます。

それはお聴聞の内容が、知識や教養に止まるのではなく、聞いたことが実際の生活等に反映されること、聞いたことをそのまま生き方と受け止めていくことです。だからこそ「浄土真宗は聴聞に極まる」といわれるのだと味わいます。

生きとし生けるものすべてを願い、はたらいてくださる如来さまを共に拝みながら、同じよ

うに生きとし生けるものすべてがしあわせに、和やかに生きていける社会をめざすことを、12の問いを通して学びました。まず私が変わるその先に「自他共に心豊かに生きる」社会をめざす歩みが始まります。ここに宗門が掲げる「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」の願いがあります。

ぜひ連研に参加してみてください。きっと新しい発見や仲間とのであいがあるはずです。また、連研を修了された方は門徒推進員中央教修へとお進みください。この教修を終えて門徒推進員となられた方が1万人を超えました。そんな仲間が一人また一人と増えていくことが、ど

んなに心強いかと感ぜさせていただけます。

12の問いを通して話し合ってきたことは、ここで終わりになるわけではありません。折に触れては、ご自身が発言されたことや、グループの中で語られたことを思い起こしてください。

連研が終わり、それぞれの生活の中で課題にぶつかったとき、必ずそれに向き合っていく力になるのだと思います。『連研ノートE・12の問い』を終えたことから新たな営みのスタートです。克服すべき課題が知らされた今、まず私自身がその課題に向き合い、克服する営みを始めたいと思います。